

た ま が わ 多摩川

所在地・・・神奈川県川崎市域の堤内地

延長・・・総延長138km(川崎市管理区間約28km)

実施主体・・・川崎市建設緑政局緑政部多摩川施策推進課

問合せ先・・・【住所】川崎市川崎区宮本町1番地
【TEL】044-200-2268



多摩川

取組み概要

取組み実施期間・・・平成23年度(2011年度)から現在継続中

①「モニタリング調査の実施」に向けた取組み手法

Step1:調査主体の把握

各地域で市民団体などによる河川敷における環境学習や、楽しみながら体験学習を行う「水辺の楽校」が盛んに行われており、学習の成果について紙ベースでの取りまとめを行っている。

Step2:調査対象の設定

GPS調査を行うにあたり、地元市民の植物に詳しい方や専門家との協議により、調査対象の「花」を選定する。

春(ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリ、ハマダイコン)

夏(ヒガンバナ、キクイモの仲間、ワルナスビ)

秋(セイタカアワダチソウ、ノギクの仲間、センダングサの仲間)

※花のある植物を対象とすることから、季節ごとに種類は異なる。



調査に使用したGPS機能付き携帯電話

Step3:GPSを利用した植生のモニタリング調査の実施

市民団体と富士通(株)、川崎市の協働でICTを活用した多摩川の植生調査を実施する。GPS機能付き携帯電話で撮影した生物情報をデータベースに蓄積し、地図情報とマッピングして閲覧、分析を支援する携帯フォトシステムを活用し、NPOと水辺の楽校で多摩川河川敷の植生調査を実施する。

Step4:調査結果の公開

植生分布調査の結果をインターネット上で公表している。



川崎市内多摩川流域28kmを4団体で一斉に実施

写真撮影
位置情報取得
メール送信

こんなにはっきりとした植生分布マップが完成します！

モニタリング調査の様子

対象地の概要・・・多摩川は、国土交通省が管理する一級河川であり、その下流部は東京都と神奈川県との境をなしている。多摩川右岸に接する神奈川県側はすべて川崎市域に含まれ、地域ごとに異なる環境特性を見ることができるところから、楽しみながら体験学習を行う「水辺の楽校」などの活動が活発に行われている。

事業への取組みのきっかけ

多摩川プランにおける新たなリーディングプロジェクトの一つとして「企業と育む環境づくり」を施策目標に挙げ、その具体的な取り組みとして、富士通(株)と協働して多摩川の植生調査を行うものである。富士通(株)は、自社が開発したGPS機能を利用した携帯フォトシステムを活用し、地図情報システムや情報処理などのノウハウを提供、多摩川を良く知るNPOと市内3校の水辺の楽校が実地調査を行うこととし、今後の環境学習に活かせるような共通の基礎となる資料を作成することを目的としている。

② 調査時の協働者との関わり

⇒NPO多摩川エコミュージアム、かわさき水辺の楽校、とどろき水辺の楽校、だいし水辺の楽校、富士通(株)富士通(株)のシステムを用い、多摩川において様々な活動を行っているNPO法人多摩川エコミュージアムや水辺の楽校3校による植生調査を実施している。市は、企業と市民団体との連携を深めるようコーディネートを行っている。

③ 調査時の留意点

多摩川土手周辺を、対象植物撮影時には、1対象ごとに、近景と遠景各1枚撮影。対象植物の間隔は約200mとする。

事業効果

●これまでの植生調査の成果は、紙ベースでのとりまとめが主となっていることから、限られた範囲でのみの情報提供となっていたが、今回のシステムを活用することで、流域全体で季節ごとに行った植生分布調査の結果をインターネット上で公開することができるようになり、各水辺の楽校などに対し今後の環境学習に活かせるような共通の基礎となる資料を作ることができる。

●これまで困難であった地域の特性や他地域との比較なども容易になる。

備考

現在の課題

今回の調査を行った団体は、NPOと各水辺の楽校となっているが、これは水辺の楽校支援として行っているため、一般公募を行っていくことは現状では考えていない。
また、広く募集をすることについては解決すべき課題がある(サーバーの容量や資料収集の際の精度の問題、収集されたデータの管理など)から、今後の検討課題としている。

今後の展望

現在は、まず多摩川の植生の現況を把握することを目的として、環境学習の一環で調査を行っているが、今後、得られた情報を分析していくとともに、これまで各方面で調査されてきた情報と重ね合わせることで、広く多面的に情報の共有化を図っていく。